

党旗

号外版

1980. 11. 18

党旗社

編集・発行人 中村光雄

東京都墨田区亀戸1-3-27-3

マルクス主義青年同盟本部

〒130 東京都中央区日本橋

電話 (03) 621-2481

関西地区事務所

電話 (06) 349-2254

帝国主義打倒！
社会帝国主義打倒！
万国の労働者、被抑圧民族団結せよ！

マルクス主義青年同盟
マニフェスト

共産主義運動の歴史的 統合の旗を押し立て、 転向・挫折の文明の平 定作戦を完遂せよ！

11/16闘争の総括および今季闘争の
性格と任務について一

〔1〕
会主義の競争口・協奏運動を全領域に
おこひろめよ！

（1）の責任者で同窓友人議題、（2）は全国統一ストライキ、結集し、又は主として（3）の頭を反人議題、（4）は、闘争において切り拓かれた地盤とは何か、それは、戦時の共同行動概念と組織形態が刻印されたことであり、戦時の中生者たる共産主義的思搜方法、工作方法を介して組織していくこと（5）社会主義的議論、統合運動が開始されたことであり、マルクス主義の最高の指導部活動の由来形態、統合形態に対する態度をよくつて分析が促進されたことに他ならない。

（6）は社会主義的大会成功であった。それは夏本君が總括している様に「全くの議論を含み込んだ政治戦略」である。しかしもはや戦時にかりに「議論をきどめる」ということを力たしかくなることはできない。その様に総括した瞬間に、成ゆくしたが故の自己防衛を行ぢ盛ることにはできない。論理的でも、歴史的にも、幹部主義に反対する闘争と、反反共産主義権力問題に対する闘争、挫折の文脈を離れて、政治運動を一致するところなくして、現在の幹部内閣に対する反動化攻勢に反対する大衆行動を本当に呼ぶべき、「監りあげ前進」と「一貫性」とはできない。それは明確な政治目標を行なうに運動に力をあらわすためのものであつた。それは大衆的結束させることはなく、分散させるものである。

〔2〕
会主義運動の
全體中の統合に
おこひろめよ！

（1）の責任者で同窓友人議題、（2）は全国統一ストライキ、結集の先のダブル運営を大勝をもたらすことを從来の一線を越えて、もはや良はないだと判断し、そこでより現代日本の開拓政治の核心問題を問わなければならぬ。反政府闘争は、それ自身の人にたって廣く、遠いもののか狹くなくなり、それとも無力化、抽象化していくだろうと在現的に理解しているのである。

（3）の責任者で同窓友人議題、（4）は、この寄食文庫の裏を直書きだ根深い挫折分子を大勝の下へひきだしたし、浮上させたり、正面から解体統合する条件をつくり上げ、それをめぐらせて、必ず実現の關係を創出すること、なげだされた。

（5）は、この転向・挫折文庫の上にそびえたたら、この寄食文庫の裏にそびえ下り、この寄食文庫の裏を直書きだ根深い挫折分子を大勝の下へひきだしたし、浮上させたり、正面から解体統合する条件をつくり上げ、それをめぐらせるのである。

マルクス 同志 関西方面隊

おなじの青年学生諸君！

この十年ぶりのストライキによる、18闘争の政治的闘争、一つい十年前の青年学生は如何に闘ったのか、そして、この十年間を何のための準備として刻印することをさうるのか、そのことを正面から問わなければならぬ。そして、この時どうにある政治諸関係一権のことをはずして、「諸要求を含みこんで」という共産主義への「自己防衛をもつた大衆闘争は如何力たりえないのである。

六〇年代の革命的大衆行動とは、學生共産主義者が、六全協以降の共産主義運動の歴史的断絶を止めることとして、「レーニン主義の復権」を掲げ、それを介して、日本に丸める前衛党建設への飛躍を企てしものに他ならない。日本の超党的左翼が、この党建設の飛躍と転化の困難さつともことなできす、敗北したな故に、日本的新左翼的理性もプロ独からの転向・修正なのである。七〇年代の党建設の闘いとは、この共产党主義といふ歴史的断絶の全結果をうけとり、六〇年代後半の闘いを党建設の敗北としてのみ規定しきり、転向・挫折の文明を生み出す思想方法、工作方法そのものを廃絶するごく少数の共産主義者の手によつて闘いとられてきたのである。この時は、七〇年代中期、六〇年代後半の闘争の敗北をみ出した解党主義の基礎となる「レーニン

然発生的につくれてゐるのではなくて、共産主義の歴史的統合の団結形態の中から生まれるのであり、最高指導部内の貴族形態の差異における国家独立資本主義を介し、「指導者のために働く」という中間駅を通じてのみあるのである。
さて、社会主义への移行形態は、下ならず然発生的につくれてゐるのではなくて、共産主義の歴史的統合の団結形態の中から生まれるのであり、最高指導部内の貴族形態の差異における国家独立資本主義を介し、「指導者のために働く」という中間駅を通じてのみあるのである。

すべての青年学生の同志友人諸君、闘争が成功したがゆえの自己防衛主義をいかにうちに辟いていくか、それは、派生した全諸結果をすゝこうけ取つて、先行的に党内闘争として組織して行くことであり、マルクス主義の力を理解するう一つであり、「指導者のために働く」ということをばかして、「無アシスマム解体闘争をおし進める」とはできないといふことである。

全生活をマルクス主義的社會運動にして、全理性をマルクス主義的前衛活動にする、主義に向かう闘争の入口へとつけ、起て、戦時の人間的理性と行動力の獲得をめざして、来たれン、社会主义建國統治を習得する正義の戰場へ、

幹部・挫折の文明とは、共産主義の全歴史を統合して六全協、六全連、方前衛党にそれを生み出す根源そのものを廃すの条件を培養してきた時代なのである。
幹部・挫折の文明とは、共産主義内部の分裂や断絶をあはつりつたり、共産主義の理性を解放する党旗の下を廻らして、共産主義者への態度を根本的に誤つて、その上、共産主義内部の分裂や断絶をあはつりつたり、共産主義内部の分裂や断絶をあはつりつたり、

後期の共産主義からの転向・挫折とは、この革

一九八〇年十一月十八日

政治的理諭

十二年方言を手にすう闘いから転向・挫折に

かた

第三度見だすと何を

自己防衛をうち辟く諭理があつて、う

かた

けはならない。

かた